

卒業生からのエールです

学生の皆さんへのメッセージ

p.2 綿谷 駒太郎
(NPO 法人あそびが寺代表理事)

サイコロあるかな・・・

絵双六からみる日本社会と学校

p.3 須永 哲思 (非常勤講師)

「職人の技」を目の当たりに！

「森に生きる」

「ローカリーアクト天理 SDG s 森に生きる」報告

p.7 竹村 景生 (総合教育センター)

だなw



心の健康法 24

自分の Just Fit(ちょうどぴったり) 感を大切にしましょう！

p.12 仲 淳 (総合教育センター)

学生の皆さんへのメッセージ

NPO 法人あそびが寺代表理事 綿谷 駒太郎

生涯教育専攻 2014 年 3 月卒の綿谷 駒太郎です。大学卒業後は公務員経験し、学校法人きのくに子どもの村学園で小学校教員を経て、現在は独立し 2 つの法人を運営しています。私の失敗談と人生で大切にしていることについてお伝えしたいと思います。

現在の事業は、無住職寺院を活用した子どもの居場所づくりや、プロから学ぶ小学生向け体験講座の企画、中高生と架空の会社を立上げる起業体験など、「教育」と「まちづくり」に関わる仕事を、自治体と共に行うことが多いです。

一見すると順調に見えるかもしれませんが、失敗続きの人生です。学生時代の私は授業に最低限しか出席せず、遅刻の常習犯。卒業論文の提出もギリギリでした。社会人になってからも、小学校教員免許の取得は必修単位を落とし、2 年で取れるところを 1 年余計にかかりました。そのせいで、なんと合格していた教員採用試験を辞退するという大失敗も経験しています。

しかしこの失敗こそが、私のキャリアの重要なターニングポイントになりました。

私が影響を受けた講演であるスティーブ・ジョブズ氏の「Connecting the dots」。また、私が大事にしている、キャリアの約 8 割は偶然で決まるという「プラントハップンスタンス理論」。これらに共通するのは、成功か失敗かは「偶然」の割合が多いということです。そして、その偶然をチャンスに変えるには、とにかく行動し、経験することが不可欠だと説いています。

学生時代の綿谷さん 2013 年 8 月「森に生きる」実習にて



単位を落とし教員採用試験を辞退したあのかとき「日本で一番おもしろい教育をしている学校に就職したい」と決意しました。リサーチで見つけたのが、日本初の文科省許認可の自由学校「きのくに子どもの村学園」です。学園長に手紙を書き、採用していただきました。公立学校の教員になれなかったという大失敗すらも、理想の学校で働くための「偶然」に結びついたので。失敗でも成功でも、損しても得しても、それがきっかけとなり、新しい道が見えてくる可能性があるということです。

現在、私は長期的な視点が必要な教育やまちづくりのプロジェクトに多く携わっています。大事なのは、まず「やってみる」という感覚と「やってからなんとかする」という柔軟性だと思い、仕事に励んでいます。大学生のみなさんも、失敗や人の目なんて考えず、とにかく興味のあることにチャレンジしてみてください。チャレンジすれば大体のことは5年後には「やってよかった」と思えるはず。今日の私の文章が一步前に踏み出すきっかけになると嬉しいです。



現在の綿谷さん

絵双六からみる日本社会と学校

非常勤講師・「教育史」「教育史特論」担当 須永 哲思

小学生の息子から「一緒に遊ぼう！」と言われるのですが、スーファミ・プレステ世代（1986 年生まれ）の人間には、Switch で 3D ゲームと一緒にやるのは目が疲れて辛い……。そんなわけで、ボード版の「人生ゲーム」を買ってみました。自分が子どもの頃に遊んだものと比べると、職業に「動画クリエイター」があったり、転職マスの増えたり、結婚しないという選択ができたり、一番高価な家がタワーマンション？だったり、時代の変化を感じて新鮮でした。「『人生』の成否を生涯年収・総資産額で競うって、むなしくない？」と息子に聞いたところ、「いや、道中楽しければ良い」とのこと。なるほど（？）。Switch 世代の子どもにも、双六は楽しく遊べるようです。お正月の風物詩としての存在感は薄れてきたものの、昔ながらの遊び・おもちゃとしていまだにしぶとく生き残っているのだな、と思いました。

さて、こうした双六の起源はサイコロ（賽）と並んでかなり古い（紀元前）と言われていきます（須永家で遊んだ「人生ゲーム」はルーレット形式でしたが）。日本に双六が伝わってきたのは奈良時代頃（例：正倉院所蔵「木画紫檀双六局」）とされますが、当時は「盤双六」（将棋盤のような台の上でサイコロの目に応じて駒を動かすもの）で貴族の遊戯・賭け事のようなものだったといわれています。その後、近世・江戸時代に木版画技術が革新したことにより、色刷の「絵双六」が比較的安価に出回るようになり、子どもたちも遊べるようになりました。さらに近代に入ると、児童雑誌・婦人雑誌の附録として様々な絵双六が作成・発行されました。明治期・大正期には、男の子向けの「立身出世」をテーマとするもの、女の子向けの「良妻賢母」をテーマとする双六など、双六にも時代の価値観が反映・刻印されている様子を見て取ることができます。一例ですが、次頁には、戦時中と敗戦直後の双六をそれぞれ掲載しています。

上図は、1940年1月の雑誌『少女倶楽部』の附録「皇軍萬歳双六」です。「ふりだし 毎朝宮城の方をむいて参拝いたしませう」から始まり、「1 千人針」（銃弾よけのお守り）、「2 勤労奉仕」、「12 勉強 銃とるころでまじめに勉強」、「14 ぜいたく（「10 質素儉約」に戻る）、「23 出征兵士見送り（「元気よく」「出征兵士を送る歌」を歌う）」と進み、24 マス目からは、具体的な地名は書かれていないものの中国大陆らしき町・山野（上海？）に向けて陸路／海路に分かれて侵攻、45 マス目で「上り」となり「皇軍萬歳」と先に唱えた方が勝利、とされています。陸軍省情報部・海軍省軍事普及部の校閲を経たもので、前半では戦時下の女の子に求められた「銃後の守り」にふさわしい行為・心構え、後半では戦地の様子（ただし、敵兵の姿はなく戦場の過酷さはデフォルメされている）を伝える内容だったといえます。

他方で、下図は、上図の双六から5年後の1945年12月に発行された「平和日本建設すご六」です。並べてみると、この5年間の価値観の大転換がよく分かるのではないのでしょうか。数字に①One、②Two、③Three とわざわざ英語が付されているのは、1945年9月からアメリカ軍を主体とするGHQによる占領政策が本格化したことに対応していると思われます。また、戦後の新制中学校（男女共学の三年制の義務教育学校）の成立は1947年4月なので、この時点では「9 中学校」は旧制中学校（男子エリート向けの中等教育機関）であるため、「女子組」が止まった場合には「7 国民学校卒業式」へ戻されてしまっています。さらに、「18 社会へ家庭へ」では、「男子組」は「就職」して「会社」「工場」に行くのに対して、女子組は「女子事務員」のマスもあるとはいえ（男性用マスにはない）「料理」「裁縫」のマスが用意され、戦前以来の性別役割分業観（男は仕事、女は家庭）が前提とされています。その上で、男性も女性も政治演説・婦人演説会を経て「上り」は「帝国議会」選出（女性参政権と戦後民主主義の理念の強調）とされている点にも、当時の時代状況をうかがうことができます。当時の価値観やその歴史的な変容過程について、双六は様々なことを語ってくれます。50年後の子どもたちは、果たしてどのような双六で遊んでいるのでしょうか。

上図：「皇軍萬歳双六『少女倶楽部』新年号附録」（案・中村星果、画・澤井一三郎、『少女倶楽部』18(1)、1940年1月1日、編集発行宇田川鈞）筆者所蔵・撮影

下図：「男子組女子組競争 平和日本建設すご六」（鹿島謙次、秀英堂紙工印刷所、1945年12月20日）筆者所蔵・撮影

案・果星村中
畫・郎三一井澤

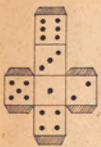
録附號年新 六双歳高軍皇 部樂俱女少

園校部報情省軍陸
園校部及普事軍省軍海



六ごす設建本日和平 争競組子男 組子女

さいころ
作り方



サイコロの造り方
ウラオモテのカスを合せてセツ
となるやう作ります。
側の大根人参加讀でも作れます



「森に生きる」「ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる」 ツリーハウスメンテナンス 宮大工体験 9月13日

講師 幸田 高由 氏 秘密基地研究会代表
北野 信久 氏 みえ森づくりサポートセンター長
村田 耕一 氏 元伊勢神宮宮大工棟梁

総合教育センター 竹村 景生

9月13日(土)に、森に生きるの実習を行った。当初は、川上村「ようぼくの森」での林業実習であったのだが、全国各地で「熊」問題が発生した事を踏まえて、今回は危険回避のために川上村行きを中止にし、学内でのワークショップに切り替えることになった。

野生動物の緩衝地帯(Buffer Zone)を越境してくる昨今の状況は深刻で、従来のシカや猿による農作物被害、奈良県では大台ヶ原のトウヒ林被害、春日山原始林の樹木の食害による被害や農作物の被害というレベルを越えて、人命を脅かすまでになってきた。ひとと野生生物との共生のバランスが崩れたのは、もとをただせば荒廃してきた山林の問題でもあり、もちろん地球温暖化の問題も影響を与えている。山に入ればわかるが、植生の多様性がなくなり、昆虫がいなくなり、鳥がいなくなってきた。植物のいのち(種子)の循環が途絶えようとしている。SDGsをこの授業の主眼としているだけに、学習と実習の組み合わせをますます密にしていきたいと考えている。

ところで、実習内容であるが、講師の幸田高由さんの提案で2021年度の造ったツリーハウスのメンテナンスと宮大工体験を実習することになった。

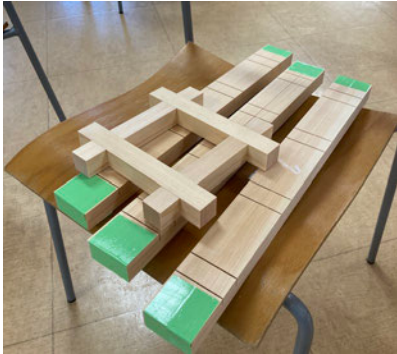


ツリーハウスは作製してから5年目となったが、保存状態もよく、スムーズにワックスをかけることができた。今回、講師の幸田さんと一緒に来られた元宮大工の村田さんにも、ツリーハウスの状態を見ていただいた。十分使用可能だというお言葉を頂いた。置かれているシチュエーションを利用した活用が望まれる。

ツリーハウスのメンテナンスでは直近にあまり整備できていなかったにも関わらず、特にこれといった不備が見られなかったことに対して、自分の想像以上に長く良い状態を保持することに驚いた。先輩方が丹精込めて造ったこのツリーハウスを何かしらの形で活用する方法を少しでも考えていきたい。(学生の感想)



今回初めて試みたのは、元伊勢神宮宮大工棟梁の村田耕一さんによるワークショップである。材料、道具をお持ちいただき、それらを使ってみんなで井桁づくりを行った。



実習の最後に、村田さんから宮大工のかなさばきを見せていただいた。目に見えないレベルのかなの刃先から勢いよく飛び出してくるかなくずの飛翔は、天女の羽衣にも似た感動を覚えた。学生ホールは、神宮ヒノキの香りが広がっていた。

宮大工ワークショップを通じて、道具の使い方や、金属の補強を用いない木の組み方の基本等を学ぶ事が出来た。(学生の感想)



心の健康法 2 4

自分の Just Fit(ちょうどぴったり)感を大切にしましょう！

総合教育センター 仲 淳(臨床心理士)

このあいだ、家族とちょっと遠くの大型ショッピングモールに行きました。そのとき、僕は白の長袖シャツがほしいと思っていたのですが、初めて行くところだったこともあり、どんなふうを買うか、少し考えてみました。そして、いつもはあんまりたくさんお店をまわらずに、まあ、これかな？と思うものがあったら、勧めてくれた店員さんにも悪いし、それを買う、というやり方をしているのですが、今日はせっかくなので、とことん試着をしまくって、自分が「これ！」と納得できるものが見つかるまであきらめない、と決めて買うことにしたのでした。

そして、とにかくよさそうだなと思うシャツを手当たり次第に試着しながら、ついてくれた店員さんには、「もうちょっと探してみます」と何回も断って、まわること6、7軒目。ちょっとあきらめかけたところに、「ああ、これだな！」と思えるシャツに出会えたのでした！店員さんも、「ジャストサイズで、いいですね」と言ってくれて、とても満足でした。

シャツは、その人の体型にぴったりなものが一番似合って、映えるのだそうですが、「私にとっていいもの」というのは、「自分にちょうどぴったりなもの」なのではないか？という気がします。

他の人に遠慮することなく、自分が気に入って、「これだな」としっくり思えるもの(考え方なども)を選んで、身につけていく。そうすると、無理することなく、気持ちよく、生き生きと生きていけるのではないのでしょうか？自分の「Just Fit(ちょうどぴったり)」感を大切にしていきましょう～！！

編集後記 今号には2013年夏、同じ釜の飯を食らい、共に森に生きた卒業生「駒太郎」に、後輩たちへのメッセージをお願いしました。素晴らしいメッセージをありがとうございました。立派になったね・・・感慨無量～(杉)



CRADLE(クレードル) 第29号 2025年11月発行

発行者 曾山 典子 天理大学 全学教育推進機構

編集 仲 淳 杉本 めぐみ

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050 電話 0743-63-7092 (内線) 6111

印刷 天理大学 DPセンター